

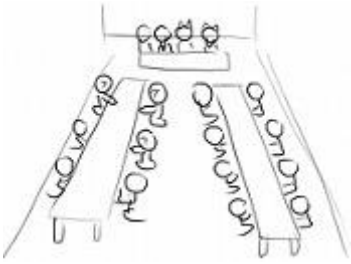





場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
1		食事処。 長テーブルに会席料理が並んでいる。 お凜様一同が入ってくる。 お凜様「わあ、美味そうじゃ！」 各々席に着く。	
2		部屋の脇に控える堅太郎と清子。 堅太郎「本来はちょっとずつお出しするんですが、こういう時なので、まとめて出させてもらいました」 清子「お口に合えばいいんですけど」	
3		お凜様「腹が減っては戦はできん。こういう時こそ、食べる時にしっかり食わんといけん」 牙吉「そうだい」 飛丸「そうでやんす」	
4		お凜様「わしがおらん間に先走って酔い潰れとったんもおるが、こういう時じゃし、子供が多い手前、こん夕食に酒はなしとするで」 牙吉「ええっ……」 飛丸「ええっ……」 達次郎が無言。	
5		堅太郎「では、お茶とお水を用意しますね」 清子「ジュースが良ければ、ありますよ」	


場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
6		お凜様「そんじゃあ、一同、山海の恵みに感謝して、いただきます！」	
7		一同「いただきます！」	
8		各々が食事を始める。	
9		お凜様「美味しい！」 牙吉「美味しい！」 飛丸「美味しい！」	
10		達次郎「美味しい！」	




場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
11		かな「美味しい！」 きりお「美味しい！」	
12		やすお「美味しい！」 取り巻き達「美味しい！」	
13		子供達「美味しい！」	
14		お凜様「おっかさん、すごく美味くて涙が出そうじゃ！」	
15		清子「ありがとうございます」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
16		たける「お母さんの料理は本当に美味しいんだ。和食以外も得意だよ。日本一だと思う」	
17		堅太郎「清子さんの他に、台所で包丁持たせて右に出る者はいません。料理で結婚を決めたくらいで」	
18		清子「私は、堅太郎さんの料理で決めましたけどね。不器用で失敗も多いですけど」	
19		お凜様「料理でつながるとるんじゃな。わしも料理すんの好きじゃよ」	
20		清子「どんな料理を？」	

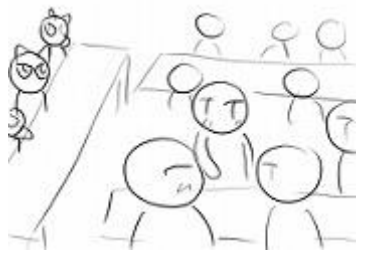

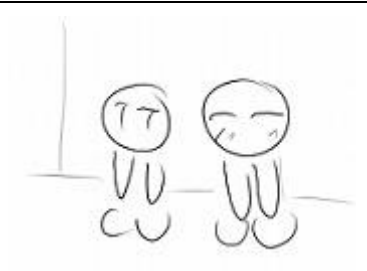


場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
21		お凜様「山の中に住んどったけえ、やれることは限られとるがのう、獣や鳥、魚、木の実、山菜、育てた野菜なんかを使って、真っ赤な激辛の味噌でぐつぐつ煮込んだ地獄鍋をようやとったよ」	
22		清子「地獄鍋！」 堅太郎「鬼神様だけに」	
23		牙吉「ヒイヒイ言うくらい辛いぜ」 飛丸「でも美味しいでやんすよ」	
24		たける「僕、辛いのが好きだよ」 きりお「僕も」 かな「私はちょっと……」	
25		お凜様「辛さは調節できるけえ、作っちゃろうか？」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
26		堅太郎「是非とも」 清子「勉強させていただきます」	
27		たける「楽しみだな～」	
28		お凜様「すご〜く、熱いで！」 お凜様がたけるに愛らしい笑みを向ける。	
29		たける「うん……」 たけるがドキドキする。	
30		かな「すご〜く、甘いお菓子作ってあげるね！」 かながたけるに愛らしい笑みを向ける。	






場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
31		たける「うん……」 たけるがドキドキする。	
32		お凜様「なんか張り合うとらんか？」 かな「別にそんなんじゃ！」	
33		清子「あらあら」 清子が察している様子。	
34		達次郎「初々しいな」	
35		お凜様「このお造り、鯉じゃな？」 堅太郎「ええ。庭で育ててるやつでして」	






場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
36		堅太郎「旅館の会席料理というと、山奥ですらまぐろなど海の魚のお造りが出たりするもんですが、埼玉は海ないですから、川魚の方がそれっぽいと思ひまして」	
37		お凜様「そうじゃな」	
38		堅太郎「溪流に近いという意味では、岩魚や鮎もいいんですがね、刺身のように食べられる鯉の方が個人的には好きで」	
39		達次郎「私は鯉の洗いが好物でして」 牙吉「おいらもだぜ」 飛丸「あっしもでやんす」 堅太郎「そうなんですか。それは良かったです」	
40		清子「堅太郎さん、小さい頃から家族と群馬の水上温泉に泊まる習慣があったらしくて、その旅館で鯉の洗いが出て、大好きになったみたいで」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
41		達次郎「上州の鯉がきっかけでしたか。なんかうれしくなっちゃいますね」	
42		牙吉「達次郎さん、庭の池の鯉見ながら、これさばいたら美味そうって言ってたんで」 飛丸「夕食に出してもらおうか尋ねようかと思っただやんす」	
43		堅太郎「私も小さい頃から旅館とかで飼ってる池の鯉を見ながら同じこと思っていましたよ。きれいとか、かわいいよりも、美味そうって」	
44		お凜様「わしもそうじゃな。鯉にはかわいそうじゃが」	
45		達次郎「なんだかわかりませんが、魚はどれも、美味しいものにしか見えないんですよ」	


場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
46		たける「お凜様達って、結構当たり前に肉とか魚食べるんだね」 お凜様「食うよ。どうかしたんか？」	
47		たける「神様って動物を食べないと思ってた」 お凜様が一瞬狼狽える。 お凜様「そ、そりゃ仏じゃ。神にゃ禁じられとらんよ……」	
48		お凜様「仏教じゃと肉も魚も食えんし、酒も飲めん。神道なら両方大丈夫じゃし、むしろ供物として大事にされとる」	
49		たける「そうなると、神様は肉や魚を食べるために殺してることになるけど、やっぱり、痛いし苦しいし怖いんだよね……？ 豚や牛や鶏、今食べてる鯉の神様もどこかにいるんだよね？」	
50		お凜様「それ突っ込まれると、すごく困るんじゃけどな……」 牙吉「犬も食われるぜ」 飛丸「鳥もでやんす」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
51		やすお「結局、自分たちの都合で殺してるんだよな、どの動物も」	
52		かな「やめて。何も食べられなくなっちゃう」	
53		お凜様「生きるためにや、何かしらほかの生き物を殺して食わないといけん。米や麦、野菜だって生き物じゃ。それぞれに精霊や神もおる。そん命をいただくんじゃけえ、それに感謝して残さず大事に食わんといけんのじゃ」	
54		きりお「煮物とか結構残しちゃってた……」 かな「私も……」	
55		堅太郎「食材や味付けにどうしても好き嫌いはある。野菜は、小さいうちは食べ慣れないものもあると思う。無理して飲み込めとは言わないけど、できるだけ残さないのがいいね」	

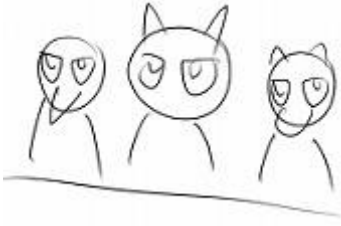
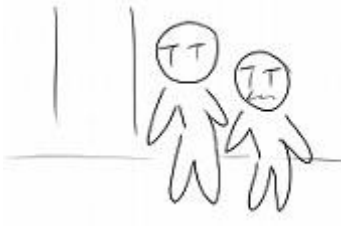



場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
56		お凜様「仏教じゃと、動物を食べないことが命を大事にすることになると考えとる。逆に、神道じゃと、動物を真剣に食べることが命を大事にすることになると考えとるわけじゃな」	
57		たける「じゃあ、真剣に食べるね」	
58		やすお「熊男が人襲うのは、食べるために真剣に殺すなら許されるの？ 俺たちやられたよ？」	
59		お凜様「妖賊が人襲うのと一緒くたにしちゃいけん。あやつらは生きるために必要に迫られて食うわけじゃない。邪悪な快樂のために人間の命をもてあそぶんじゃ。許されるわけないで」	
60		やすお「今こうしてご飯食べてるけど、お凜様が助けてくれなかったら、熊男に殺されたかもしれない。ガツンと信じられないような痛みがあって、目の前が白いのか黒いのかもわからないような感じになって……」	


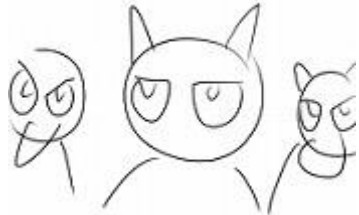



場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
61		やすお「俺は、熊男に殺されるなんて嫌だよ」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」	
62		お凜様「お前達はいじめはやとったが、人殺しをしたわけじゃない。じゃけえ、ちゃんと改心して乱暴せん良い子になるんじやったら、わしが熊男の餌食にはさせんよ」	
63		やすお「お凜様を信じるよ」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」 取り巻き「俺も……」	
64		堅太郎「話の流れが辛気臭くなりましたね。切り換えましょう」	
65		お凜様「おとつあんとおっかさんは一緒に食わんのか？」 堅太郎「私達は若い衆達と後で食べます」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
66		お凜様「皆で食った方が美味しいじゃろう。遊戯場との仕切りをぶち抜いて、一緒にやろうじゃないか」	
67		堅太郎「では、お言葉に甘えて」 清子「皆を呼んできますね」 堅太郎と清子が席を外して部屋を出ようとする。	
68		お凜様「そういえば、刑事さんは？ おらんじゃないか」	
69		堅太郎「その、熊男の見張りが手薄になるからと、お部屋食にしてほしいと要望がありまして。今お召し上がりだと……」	
70		お凜様「頼もしいが、寂しいのう」	

場面：神饌共食

番号	画面	内容・台詞	時間
71		清子「お料理を持って行った時、なんだか凄い銃を並べていましたよ。警察があんな銃を持ってるのかわかりませんが」	
72		お凜様「妖賊に普通の銃は効かんぞ……」	
73		たける「じゃあ、刑事さんがいてもだめじゃん！」	
74		お凜様「やりようはある。ちょっと刑事さんところ行ってくるで」 お凜様が席を外す。	
75		お凜様「今ところ敵の気配はないけえ、皆はゆっくりやっておくれ」 牙吉「おう」 飛丸「おう」 達次郎が軽く会釈する。 お凜様が部屋を出ていく。	